

# 北九州市内におけるSDGsの認知度に関する調査

片岡 寛之、小林 敏樹

## 1. はじめに

### 1-1 調査研究の背景

2015年の国連サミットにおいてSDGsが採択されて以降、日本においても各地でSDGsに関する取り組みが進められている。北九州市では、とくに行政を中心としてSDGsに関する様々な取り組みが行われており、着実に実績を積み上げつつ、同時に市民に対する普及啓発活動も盛んに行われている状況にある。しかし、これまでの行政主導の取り組みについては、取り組みの実績とそれに対する市民の肌感覚としての認知度のようなものに乖離があることが多い。また、このSDGsに関する取り組みは、行政や企業や市民などの垣根なく、すべての主体が関われる取り組みであり、関わる必要のある取り組みである。そのため、北九州市においてSDGsに関する取り組みが今後の重点的な施策として継続的に実施されることを視野に入れたうえで、その推進のために有用な基礎的情報として、現時点では実態の把握が行われていなかった、SDGsに関する市民の理解度や認知度についての把握、分析を行うこととした。

### 1-2 調査の目的

本調査の主な目的は、SDGsの言葉や意味の認知度や北九州市で行われているSDGsに関連したさまざまな取り組みの認知度の把握とSDGsに対する考え方を把握し、それらの分析、考察を通して、今後のSDGsに関する取り組み等への示唆を得ることである。

### 1-3 調査の方法

調査は、インターネットを利用した下記のアンケート調査により行った。アンケート調査では、北九州市内在住の方を対象として、SDGsの認知度や、北九州市で行われているSDGsに関連した取り組みについての認知度、SDGsに対する考え方をきいており、その結果をもとに分析、考察を行った。

調査実施期間：2019年02月22日（金）～2019年02月26日（火）

調査方法：インターネット調査（民間のインターネット調査会社へ委託）

回答者：北九州在住の15歳～74歳までの男女1241名

（20～60代は男女各100名、10代と70代は男女各50名を目安に実施）

## 2. SDGsに関する基礎知識

本章では、SDGsという言葉の認知度、また、SDGsの17の目標についての認知度について分析、考察する。

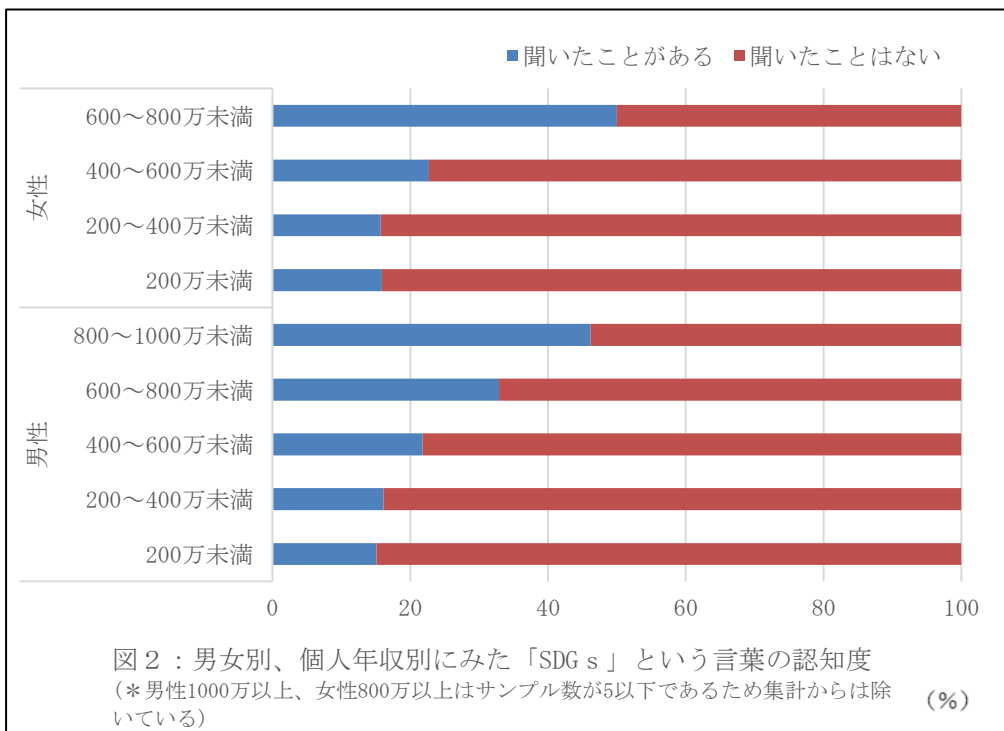
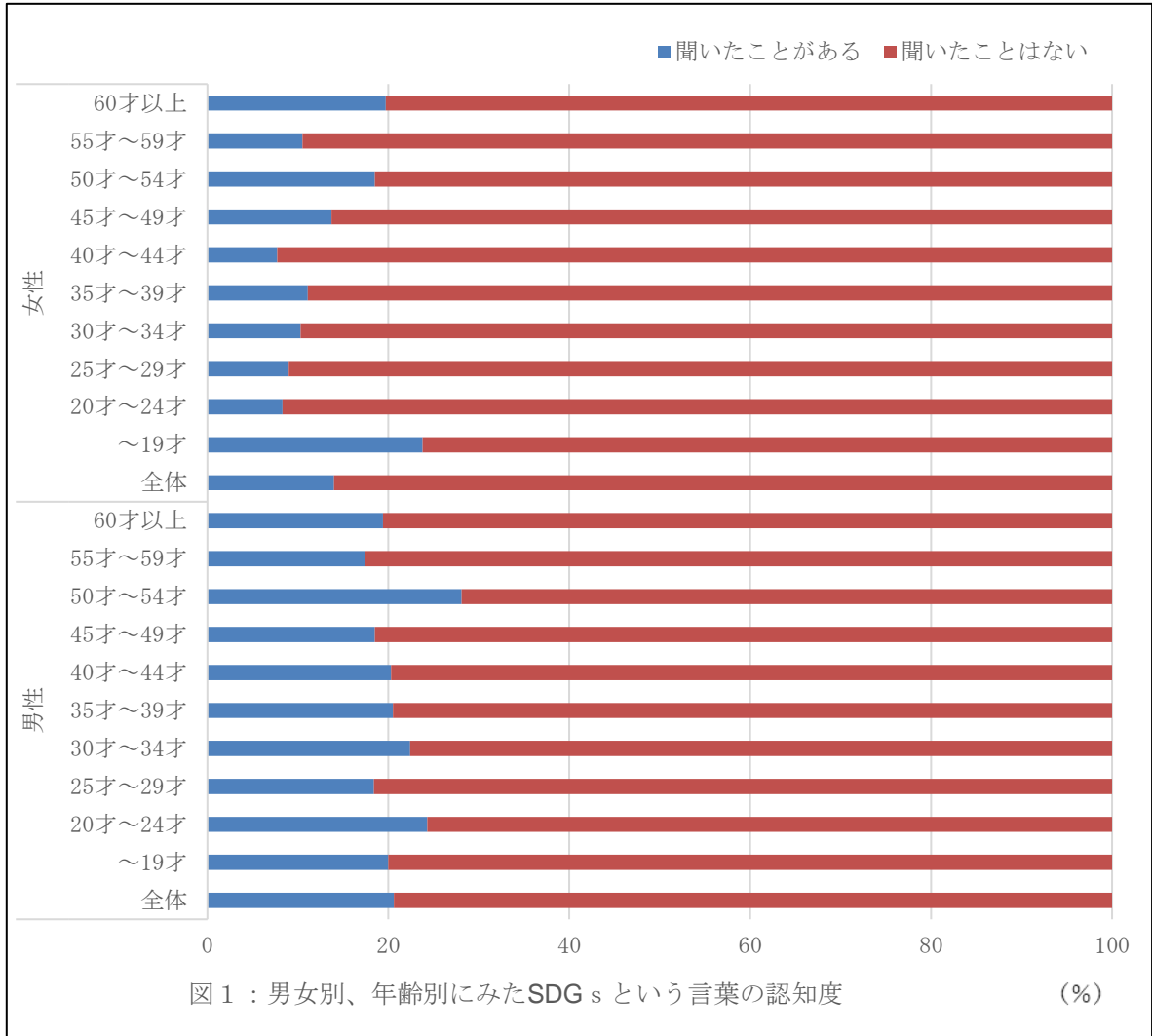
### 2-1 SDGsという言葉について

#### (1) SDGsという言葉の認知度

「あなたはSDGsという言葉を知っていますか？」との設問に対する回答をみると（表1）、聞いたことがある人は約17%とかなり低く、SDGsという言葉の認知度が低いことがわかる。男女別にみると（図1）、男性は約20%、女性は約15%と女性の認知度が低い。年齢別にみると（図1）、男性は50代前半の認知度が最も高いものの、全体的には年齢によるばらつきはそれほど見られない。一方、女性は、10代と50代後半を除くと年齢に比例して認知度が高い傾向にあり、20～40代の認知度アップが課題といえる。また、個人年収別にみると（図2）、男女ともに、年収が上がるにつれて認知度も上がる傾向にあることがわかる。

表1：SDGsという言葉の認知度

Q4 あなたは「SDGs」という言葉を知っていますか。			
(単一回答)		回答数	%
1. 聞いたことがある		215	17.3
2. 聞いたことはない		1026	82.7
全体		1241	100.0



## (2) SDGsの意味を知っているか

前節(1)の設問(SDGsという言葉の認知度)において、SDGsという言葉を知ったことがあると回答した方を対象に、SDGsの意味の認知度について聞いた結果(表2)、約60%の方から意味を知っているとの回答を得た。SDGsという言葉自体の認知度は低いですが、SDGsの言葉を知っている場合は、その多くが意味まで認知していることがわかる。

表2：SDGsの意味の認知度

Q5 あなたは「SDGs」の意味を知っていますか。			
(単一回答)		回答数	%
1. 知っている		132	61.4
2. 知らない		83	38.6
全体		215	100.0

## (3) SDGsを知った時期と経緯

前節(1)の設問(SDGsという言葉の認知度)において、SDGsという言葉を知ったことがあると回答した方を対象に、SDGsを知った時期を聞いたところ(表3)、半数以上が「2018年以降」に聞いたと回答している。「2018年以降」に加えて「2016～2017年にかけて」の回答者も含めると、多くの方が知った時期は、直近の1～2年程度の間であることがわかる。

また、どういった手段でSDGsのことを知ったのかを聞いたところ(表4)、「新聞・雑誌」と「TVのニュース」が約40%となり、従来型のメディアによって知った方が多いことがわかった。それらに次いで「ネットのニュース」、「会社の研修等」、「講演会・イベント等」、「各種会議」の順となっている。研修、講演会、イベント等によって知るケースもみられたことから、研修、講演会、イベント等の必要性もある程度確認できた。年齢別にみると(図3)、10代は約90%が「学校の授業等」をあげている。20代前半は「新聞・雑誌」を60%以上の方が選択し、一方で他の手段は10%台であることは特徴的である。20代後半から30代前半にかけては「SNS」の割合が高く、30代以上は「TVのニュース」の割合が高くなる傾向にあり、30代から40代にかけては「ネットのニュース」の割合も他の年齢に比べて高い傾向にある。さらに40代から50代にかけては「会社の研修等」の割合が高くなる傾向もみられる。

表3：「SDGs」を知った時期について

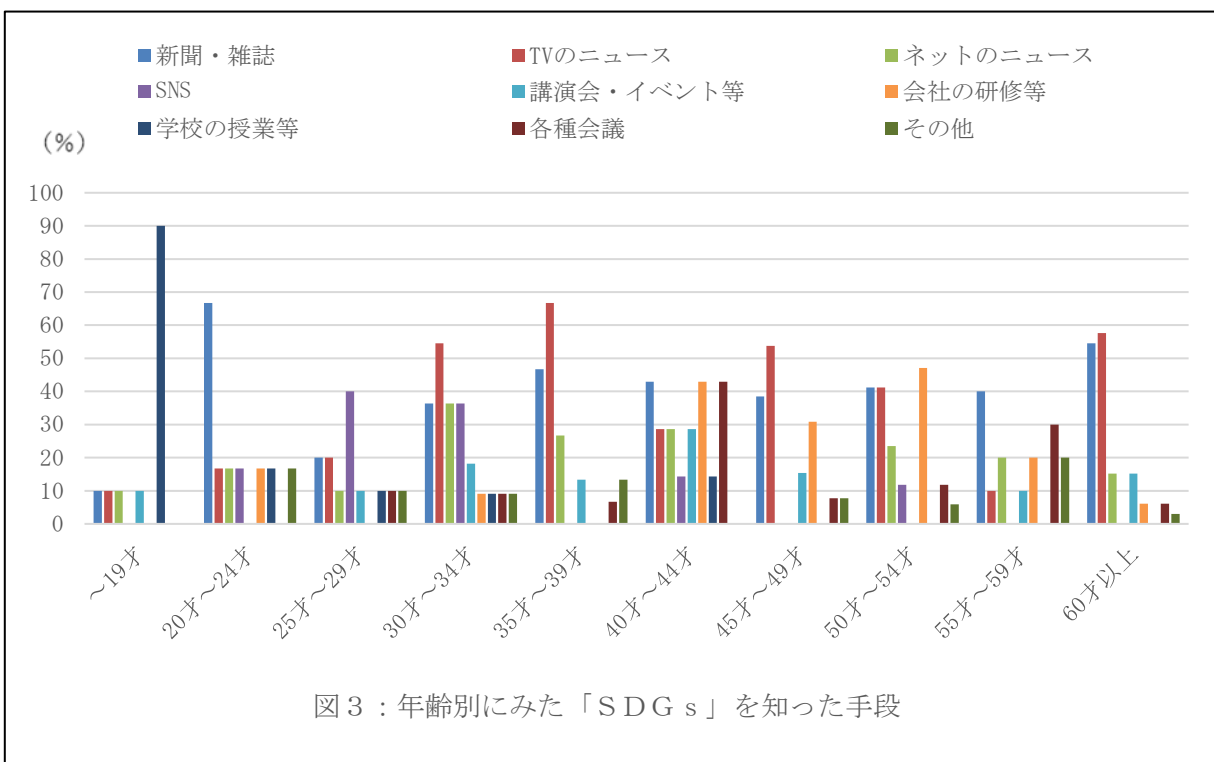
Q6 いつごろから「SDGs」のことを知っていましたか。			
(単一回答)		回答数	%
1. 2015年ごろから		16	12.1
2. 2016～2017年にかけて		41	31.1
3. 2018年以降		75	56.8
全体		132	100.0

表4：「SDGs」を知った手段について

Q7 どうやって「SDGs」のことを知りましたか。(いくつでも)

(複数回答)

	回答数	%
1. 新聞・雑誌	55	41.7
2. TVのニュース	56	42.4
3. ネットのニュース	24	18.2
4. SNS	12	9.1
5. 講演会・イベント等	16	12.1
6. 会社の研修等	21	15.9
7. 学校の授業等	13	9.8
8. 各種会議	14	10.6
9. その他 <input type="text"/> <a href="#">コメント表示</a> (10)	10	7.6
全体	132	100.0



## 2-2 SDGsの17の目標について

### (1) SDGsの17の目標に対する認知度

SDGsの17目標（テーマ）について知っているものを聞いたところ（表5）、「貧困をなくそう」が約70%ともっとも多く、そのほか半数以上の方が選択した目標を順に挙げると、「飢餓をゼロに」、「住み続けられるまちづくりを」、「すべての人に健康と福祉を」、「ジェンダー平等を実現しよう」となっている。一方、回答数が低い（30%代前半）目標をみると、「つくる責任 つかう責任」、「陸の豊かさを守ろう」、「パートナーシップで目標を達成しよう」、「産業と技術革新の基盤をつくろう」となっている。

以上より、貧困、健康、福祉、まちづくりなど身近な目標が比較的多くの方に認知されており、一方、目標からその内容がややわかりにくいものや身近な内容でない目標はあまり知られていない傾向にあることがわかった。

表5：SDGsの17の目標（テーマ）についての認知度

Q8 SDGsの17の目標(テーマ)について、知っているものを選んでください。(いくつでも)			
(複数回答)		回答数	%
1. 貧困をなくそう		95	72.0
2. 飢餓をゼロに		72	54.5
3. すべての人に健康と福祉を		68	51.5
4. 質の高い教育をみんなに		62	47.0
5. ジェンダー平等を実現しよう		66	50.0
6. 安全な水とトイレを世界中に		59	44.7
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに		65	49.2
8. 働きがいも経済成長も		50	37.9
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう		44	33.3
10. 人や国の不平等をなくそう		63	47.7
11. 住み続けられるまちづくりを		71	53.8
12. つくる責任 つかう責任		40	30.3
13. 気候変動に具体的な対策を		62	47.0
14. 海の豊かさを守ろう		50	37.9
15. 陸の豊かさも守ろう		42	31.8
16. 平和と公正をすべての人に		58	43.9
17. パートナーシップで目標を達成しよう		43	32.6
18. すべて知らない		5	3.8
全体		132	100.0

## (2) SDGsの17の目標に対する興味・関心

次に、SDGsの17の目標のなかで、とくに興味・関心があるものをみると(表6)、まず全体的に回答率が低いことがわかる。その中で回答の多い目標をあげると、「すべての人に健康と福祉を」、「貧困をなくそう」が約30%の方が選択している。約20%の回答率の目標をあげると「住み続けられるまちづくりを」、「飢餓をゼロに」、「安全な水とトイレを世界中に」があげられる。一方5%以下の低い回答率の目標をあげると、「パートナーシップで目標を達成しよう」、「陸の豊かさを守ろう」、「つくる責任 つかう責任」となっている。また、男女別にみると(図4)、「すべての人に健康と福祉を」、「住み続けられるまちづくりを」、「貧困をなくそう」の3つの目標において、女性の選択率が男性に比べて5%以上高い傾向がみられる。一方、男性は、「すべての目標(テーマ)に興味関心がない」の項目の選択率が女性を大きく上回っている。

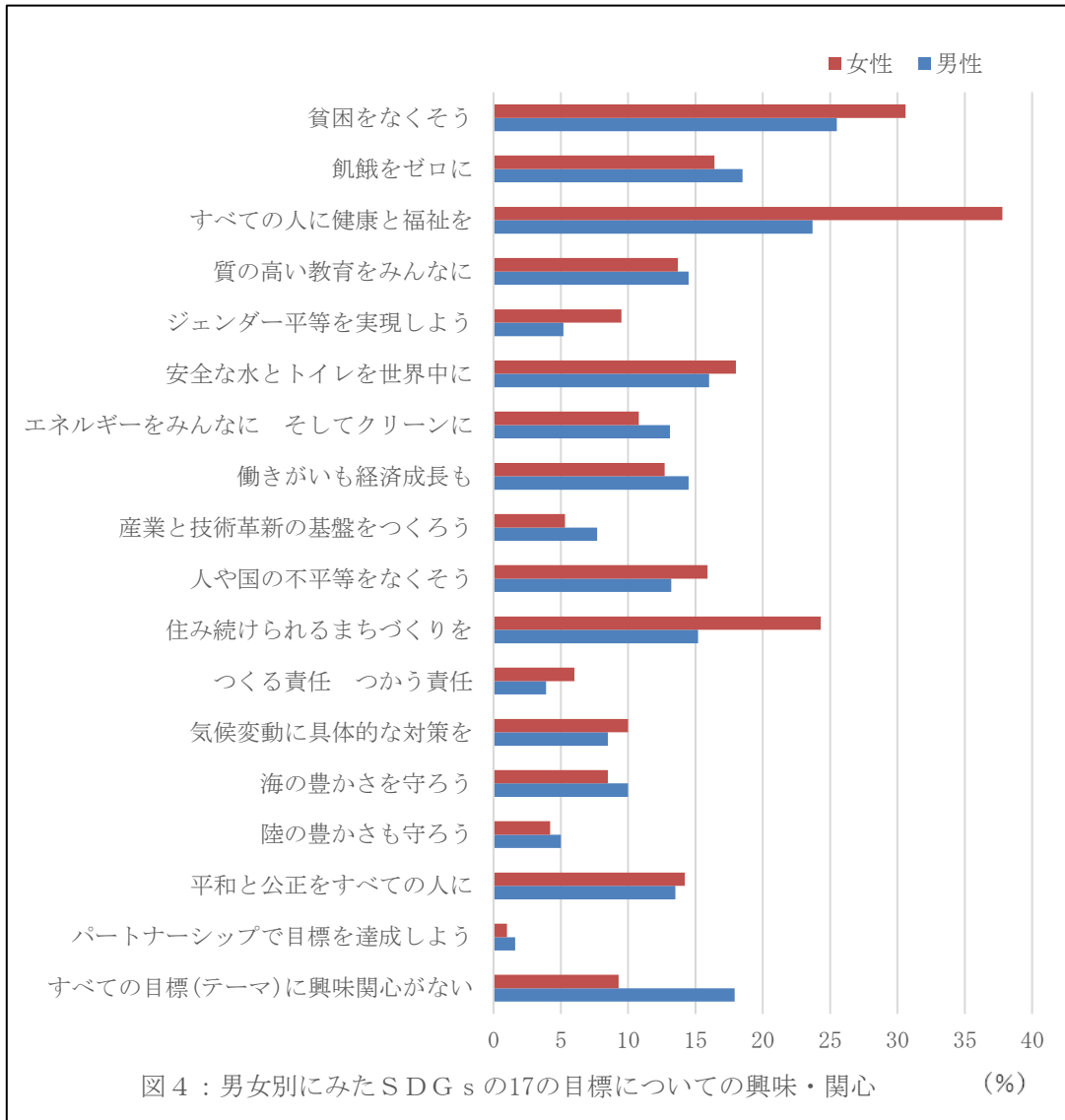
以上より、SDGsの目標に対する興味関心は、前述のSDGsの17の目標に対する認知度の回答と同様の傾向がみられ、身近な目標への興味関心が高いことがわかった。また、男性に比べて女性のほうが、SDGsの言葉の認知度は低かったものの(図1)、具体の目標についての興味関心は女性のほうが男性を上回る傾向にあることから、女性に対してSDGsの広報、普及啓もう活動を積極的に進めることが、さらなるSDGsの動きや展開につながるのではないかと推測される。

表6：SDGsの17の目標についての興味・関心

09 SDGsの17の目標(テーマ)のなかで、とくに興味・関心があるものを3つまで選んでください。

(複数回答)

	回答数	%
1. 貧困をなくそう	348	28.0
2. 飢餓をゼロに	217	17.5
3. すべての人に健康と福祉を	382	30.8
4. 質の高い教育をみんなに	175	14.1
5. ジェンダー平等を実現しよう	91	7.3
6. 安全な水とトイレを世界中に	211	17.0
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに	148	11.9
8. 働きがいも経済成長も	169	13.6
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	81	6.5
10. 人や国の不平等をなくそう	181	14.6
11. 住み続けられるまちづくりを	245	19.7
12. つくる責任 つかう責任	61	4.9
13. 気候変動に具体的な対策を	115	9.3
14. 海の豊かさを守ろう	115	9.3
15. 陸の豊かさも守ろう	57	4.6
16. 平和と公正をすべての人に	172	13.9
17. パートナーシップで目標を達成しよう	16	1.3
18. すべての目標(テーマ)に興味関心がない	169	13.6
全体	1241	100.0



### 2-3 まとめ

2章では、SDGsの言葉の認知度、17の目標の認知度について把握した。SDGsの言葉についての認知度は低く、認知している場合でもこの1~2年の間で知った方が大半であることがわかった。SDGsを知る手段としては、新聞、雑誌、テレビや講演会、研修等の従来型のメディアや従来型の周知、広報手段が有効であることも確認できた。また、年齢層によって知る手段に違いがみられることから、年齢層に応じた手段、方法で広報活動等を行うことが望ましいこともわかった。そして、17の目標については、生活に密着した目標、身近な目標についての関心が高く、一方、内容が不明確な目標や産業などの身近でない目標については関心が低いことがわかった。今後は、SDGsの言葉の普及だけでなく、興味関心の割合が低かった目標についての普及、広報活動等が望まれる。



### 3. 北九州市におけるSDGsに関する取り組み状況

本章では、北九州市におけるSDGsに関するさまざまな取り組みの認知度とそれらを知った方法についてみていく。

#### 3-1 北九州市の取り組み、実績について

##### (1) ジャパンSDGsアワード「SDGsパートナーシップ賞（特別賞）」受賞について

ジャパンSDGsアワードは、SDGs達成に向けた企業・団体等の取り組みを促し、オールジャパンの取り組みを推進するために、2017年6月の第3回SDGs推進本部において創設が決定された。SDGs達成に資する優れた取り組みを行っている企業・団体等を、SDGs推進本部として表彰するものであり、NGO・NPO、有識者、民間セクター、国際機関等の広範な関係者が集まるSDGs推進円卓会議構成員から成る選考委員会の意見を踏まえて決定される。これまでに、2回表彰が行われており、北九州市は、2017年の第1回ジャパンSDGsアワードにおいてSDGsパートナーシップ賞（特別賞）を受賞している（図5）。本節では、北九州市が受賞したSDGsパートナーシップ賞（特別賞）の認知度をみると（表7）、「知っている」は約9%であり、ほとんどの市民は知らないことがわかった。この情報を知った方法としては（表8）、「TVのニュース」、「新聞・雑誌」が多いことがわかった。

図5：北九州市が受賞したSDGsパートナーシップ賞の内容（出典：JAPAN SDGs Action Platform）

SDGs  
パートナーシップ賞

福岡県北九州市

活動概要
貢献しているSDGs目標
3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 11, 13, 17

- 北九州市は、公害克服の経験から得た「市民力」や、ものづくりのまちとして培った「技術力」を活かし、課題先進都市として、様々な取組を実施。これらの取組は、長年にわたる国際協力や低炭素社会の実現など、世界が目指すSDGsを先取りするもの。
  - ① 市民を中心とした持続可能な開発のための教育(ESD)や、市民活動の推進
  - ② 次世代エネルギーの拠点化(低炭素で安定したエネルギーネットワークの構築)
  - ③ 環境国際協力や環境国際ビジネスの推進(世界への貢献)

SDGs実施指針における実施原則(本アワード評価基準)

**普遍性:** 公害克服の経験は他の自治体へのロールモデルになり、その経験や技術は国際的目標への貢献に資する。

**包摂性:** 高齢者や女性を含む「市民が自発的に動く」の理念に則った仕組みを採用し、多様性の確保に努めており、同市の女性委員参画率は政令市トップクラス。

**参画型:** 復興支援を積極的に実施。また、多様なアクターが中心となって活動をし、行政は側面支援を行っている。

**統合性:** 例として「環境国際ビジネス」は、同市における経済活性化、国際社会における環境保全という異なる課題に寄与。

**透明性と説明責任:** 自主的な取組評価のほか、情報公開により外部から評価を受ける機会を確保。それら評価を施策に反映するPCDAサイクルを実施。

市民力(市民の力)

※「市民力」は、団体(NPO・自治会等)・企業・大学なども含む

表7：ジャパンSDGsアワード「パートナーシップ賞（特別賞）」受賞について

Q11 北九州市が外務省の「ジャパンSDGsアワード」特別賞を受賞したことを知っていますか？

(単一回答)

		回答数	%
1. 知っている		106	8.5
2. 知らない		1135	91.5
全体		1241	100.0

表8：ジャパンSDGsアワード「パートナーシップ賞（特別賞）」受賞を知った方法

Q12 どうやって知りましたか。(いくつでも)

(複数回答)

		回答数	%
1. 新聞・雑誌		48	45.3
2. TVのニュース		58	54.7
3. ネットのニュース		21	19.8
4. SNS		7	6.6
5. 講演会・イベント等		15	14.2
6. 会社の研修等		18	17.0
7. 学校の授業等		7	6.6
8. 各種会議		8	7.5
9. その他 【 】 <a href="#">コメント表示</a> (5)		5	4.7
全体		106	100.0

## (2) 「SDGs 推進に向けた世界のモデル都市」選定について

OECD（経済協力開発機構）がSDGs 推進に向けた世界のモデル都市として、世界から10～12程度のモデル都市を選定している。2018年にアジア地域で初めて、北九州市が選定された。今後はモデル都市を対象として調査・分析・評価を行い、都市・地域レベルの取組みを世界中に広げていくためのプロジェクトを実施することとしている。2018年4月現在、北九州市以外では、ボン市（ドイツ）、トスカーナ州（イタリア）、フリウリ=ヴェネツィア・ジュリア州（イタリア）、南デンマーク地方（デンマーク）、コルドバ州（アルゼンチン）が選定されている。

本節では、この「SDGs 推進に向けた世界のモデル都市」選定の認知度をみると（表9）、その認知度は、約10%とかなり低いことがわかった。また、この選定を知った方法としては（表10）、「TVのニュース」、「新聞・雑誌」が多いことがわかった。

表9：「SDGs 推進に向けた世界のモデル都市」選定についての認知度

Q13 北九州市がOECD（経済協力開発機構）の「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定されたことを知っていますか？			
(単一回答)		回答数	%
1. 知っている		153	12.3
2. 知らない		1088	87.7
全体		1241	100.0

表10：「SDGs 推進に向けた世界のモデル都市」選定を知った方法

Q14 どうやって知りましたか。(いくつでも)			
(複数回答)		回答数	%
1. 新聞・雑誌		60	39.2
2. TVのニュース		73	47.7
3. ネットのニュース		20	13.1
4. SNS		8	5.2
5. 講演会・イベント等		18	11.8
6. 会社の研修等		19	12.4
7. 学校の授業等		15	9.8
8. 各種会議		12	7.8
9. その他 【 】 <a href="#">コメント表示</a> (9)		9	5.9
全体		153	100.0

### (3)「SDGs未来都市」選定について

SDGs未来都市は、2018年に内閣府が自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取り組みを提案する都市として29都市を選定した事業である(図6)。北九州市もその29都市の一つに選定されている。

本節では、その「SDGs未来都市」選定の認知度をみると(表11)、その認知度は約10%と低いことがわかった。また、「SDGs未来都市」選定を知った方法は(表12)、「TVのニュース」、「新聞・雑誌」が高い割合を示している。

図6：SDGs未来都市、自治体SDGsモデル事業の概要(出典：内閣府ホームページ)

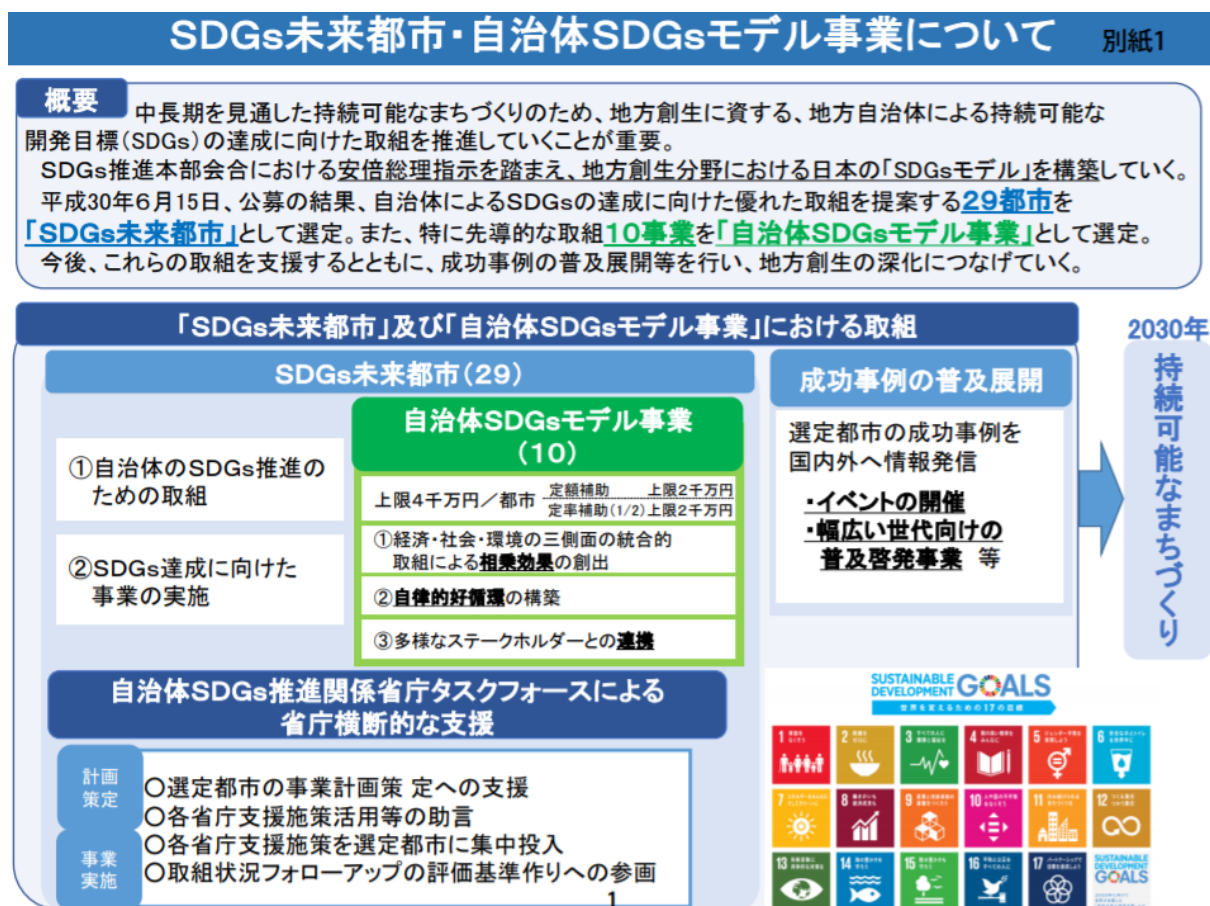
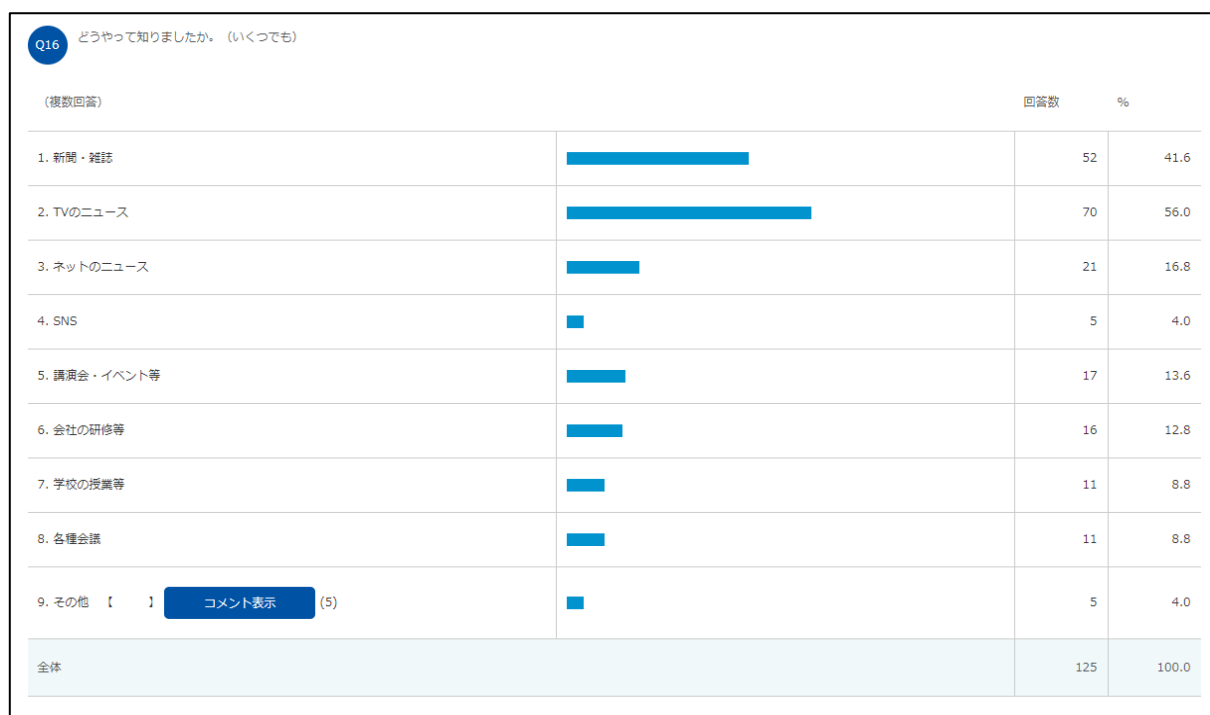


表11：「SDGs未来都市」選定の認知度

Q15 北九州市が内閣府の「SDGs未来都市」に選ばれたことを知っていますか。				
(単一回答)		回答数	%	
1. 知っている		125	10.1	
2. 知らない		1116	89.9	
全体		1241	100.0	

表 1 2 : 「SDG s 未来都市」 選定を知った方法



#### (4) 地域エネルギー次世代モデル事業について

地域エネルギー次世代モデル事業は、北九州市が独自に実施する事業である。この事業が内閣府の「自治体SDG sモデル事業」に選定されている。本節では、この地域エネルギー次世代モデル事業の認知度をみると(表 13)、約 20%が「知っている」と回答している。知った方法としては(表 14)、「TVのニュース」が半数を超え、次いで「新聞・雑誌」が多い。

次に、「知っている」と回答した方を対象に、本事業が内閣府の「自治体SDG sモデル事業」に選定されたことの認知度について聞いたところ(表 15)、約 40%の方が「知っている」と回答しており、比較的認知度が高いことがわかる。「自治体SDG sモデル事業」に認定されたことを知った方法としては(表 16)、「TVのニュース」、「新聞・雑誌」を約半数の方が選択している。

表 1 3 : 地域エネルギー次世代モデル事業の認知度

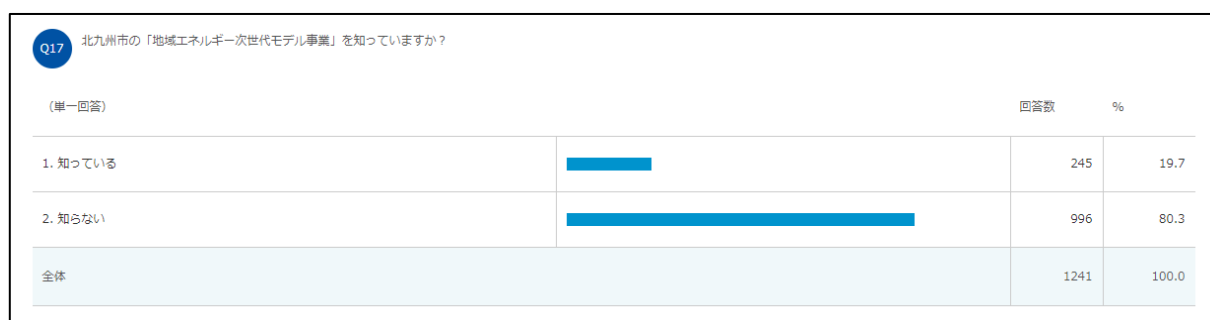


表 1 4 : 地域エネルギー次世代モデル事業を知った方法

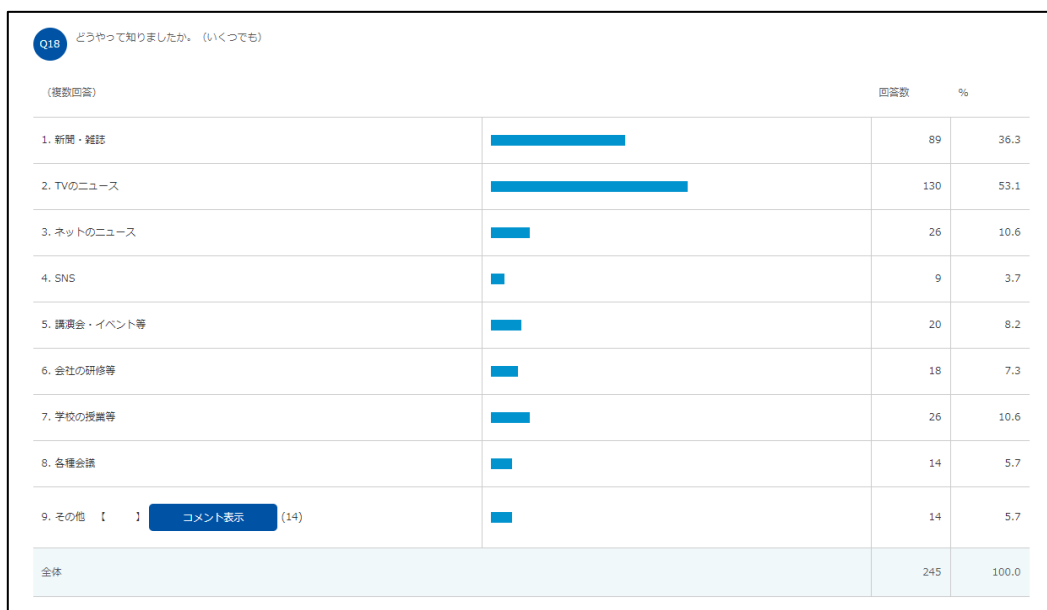


表 1 5 : 同事業が内閣府の「自治体SDG s モデル事業」に選定されたことの認知度

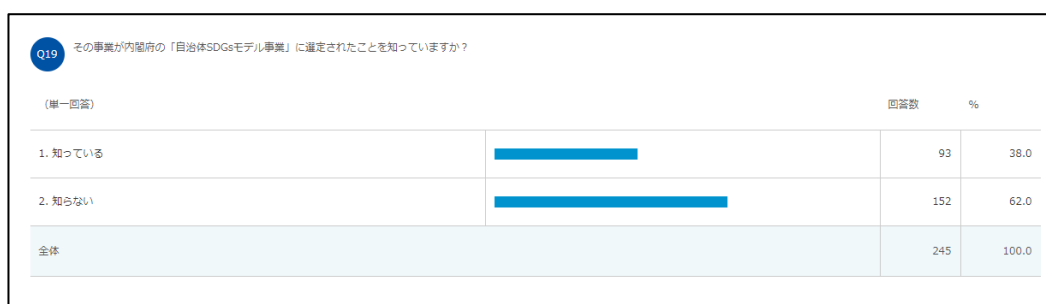
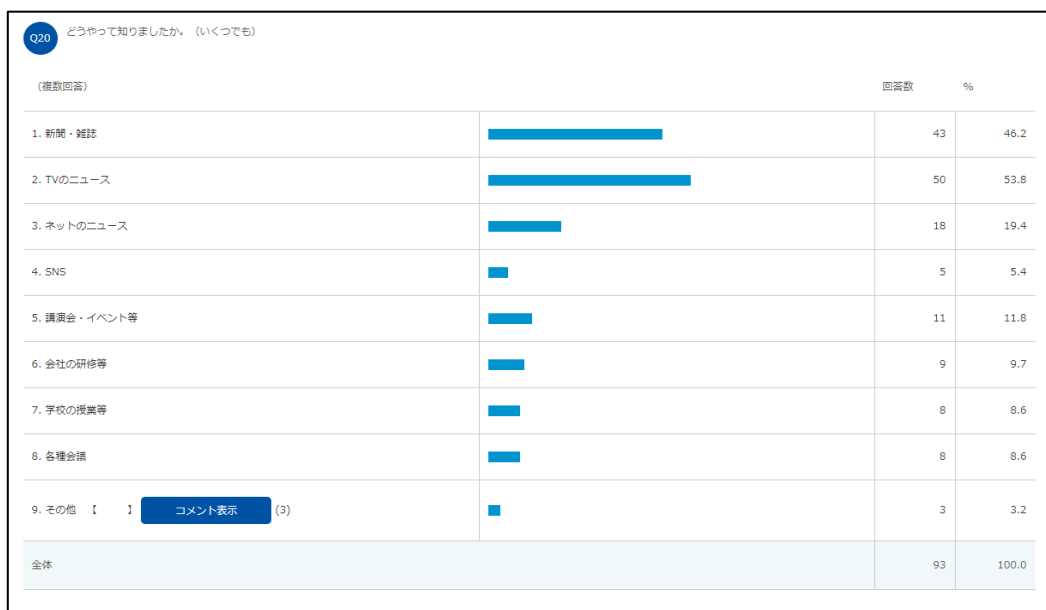


表 1 6 : 同事業が内閣府の「自治体SDG s モデル事業」に選定されたことを知った方法



### (5) 「SDGs 未来都市計画」の策定について

SDGs 未来都市計画は、SDGs 未来都市が今後3か年の取り組みを具体化した計画として策定するものであり、北九州市も2018年8月に策定している。本節では、「SDGs 未来都市計画」の策定についての認知度をみると(表17)、認知度は約10%と低いことがわかった。また、「SDGs 未来都市計画」を知った方法としては(表18)、「TVのニュース」、「新聞・雑誌」が多いことがわかった。

表17: 「SDGs 未来都市計画」策定の認知度

Q21 北九州市が「SDGs未来都市計画」を策定したことを知っていますか？			
(単一回答)		回答数	%
1. 知っている		119	9.6
2. 知らない		1122	90.4
全体		1241	100.0

表18: 「SDGs 未来都市計画」策定を知った方法

Q22 どうやって知りましたか。(いくつでも)			
(複数回答)		回答数	%
1. 新聞・雑誌		40	33.6
2. TVのニュース		53	44.5
3. ネットのニュース		20	16.8
4. SNS		9	7.6
5. 講演会・イベント等		14	11.8
6. 会社の研修等		14	11.8
7. 学校の授業等		13	10.9
8. 各種会議		10	8.4
9. その他 【 】 <a href="#">コメント表示</a> (13)		13	10.9
全体		119	100.0

### 3-2 北九州市内の各種団体および取り組みについて

#### (1) 「北九州市SDGs協議会」について

北九州市SDGs協議会は、SDGsの達成のために学識者や経済団体、市民の代表から結成された組織であり、「SDGs未来都市計画」をはじめ、SDGs推進に向けた取り組みなどに助言する役割を担っている。

本節では、この「北九州市SDGs協議会」の認知度をみると(表19)、認知度は約6%と非常に低いことがわかった。また、「北九州市SDGs協議会」を知った方法としては(表20)、「TVのニュース」、「新聞・雑誌」が多いことがわかった。

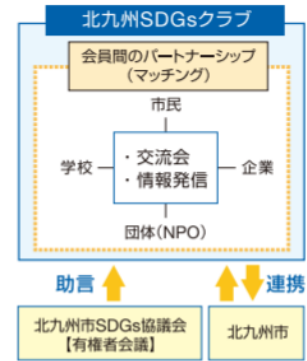


図7：北九州市SDGs協議会と北九州SDGsクラブの概要  
(出典：北九州市ホームページ)

表19：「北九州市SDGs協議会」の認知度

Q23 「北九州市SDGs協議会」を知っていますか？			
(単一回答)			
		回答数	%
1. 知っている		72	5.8
2. 知らない		1169	94.2
全体		1241	100.0

表20：「北九州市SDGs協議会」を知った方法

Q24 どうやって知りましたか。(いくつでも)			
(複数回答)			
		回答数	%
1. 新聞・雑誌		32	44.4
2. TVのニュース		36	50.0
3. ネットのニュース		17	23.6
4. SNS		6	8.3
5. 講演会・イベント等		13	18.1
6. 会社の研修等		10	13.9
7. 学校の授業等		8	11.1
8. 各種会議		11	15.3
9. その他 [ ] <a href="#">コメント表示</a> (6)		6	8.3
全体		72	100.0



## (2) 「北九州SDGsクラブ」について

北九州SDGsクラブは前節の北九州市SDGs協議会に関連した組織であり、SDGsに関連する活動の促進を目的に、市民や企業、団体(NPO等)などが交流している(図7)。本節では、この「北九州SDGsクラブ」の認知度をみると(表21)、認知度は約4%と極端に低いことがわかった。また、この「北九州SDGsクラブ」を知った方法をみると(表22)、他の認知度と同様に「TVのニュース」、「新聞・雑誌」が多いものの、「ネットのニュース」も比較的高い割合を示していることがわかった。

表21: 「北九州SDGsクラブ」の認知度

Q25 「北九州SDGsクラブ」を知っていますか？			
(単一回答)			
		回答数	%
1. 知っている		48	3.9
2. 知らない		1193	96.1
全体		1241	100.0

表22: 「北九州SDGsクラブ」を知った方法

Q26 どうやって知りましたか。(いくつでも)			
(複数回答)			
		回答数	%
1. 新聞・雑誌		19	39.6
2. TVのニュース		24	50.0
3. ネットのニュース		19	39.6
4. SNS		8	16.7
5. 講演会・イベント等		9	18.8
6. 会社の研修等		10	20.8
7. 学校の授業等		6	12.5
8. 各種会議		6	12.5
9. その他 【 】 <a href="#">コメント表示</a> (3)		3	6.3
全体		48	100.0

### (3) 「環境首都北九州SDGsアワードESD表彰」について

環境首都北九州SDGsアワードESD表彰は、ESD活動者の意欲の向上を図り、北九州市のESD推進をより一層発展させることを目的とし、2018年に北九州市と北九州ESD協議会により創設された。第1回の表彰では、4団体が表彰されている。

本節では、この「環境首都北九州SDGsアワードESD表彰」の認知度についてみると(表23)、その認知度は、6%とかなり低いことがわかった。また、この「環境首都北九州SDGsアワードESD表彰」を知った方法としては(表24)、「TVのニュース」、「新聞・雑誌」、「ネットのニュース」の順に高い割合を示している。

表23：「環境首都北九州SDGsアワードESD表彰」の認知度

Q27 「環境首都北九州SDGsアワードESD表彰」を知っていますか？			
(単一回答)		回答数	%
1. 知っている		74	6.0
2. 知らない		1167	94.0
全体		1241	100.0

表24：「環境首都北九州SDGsアワードESD表彰」を知った方法

Q28 どうやって知りましたか。(いくつでも)			
(複数回答)		回答数	%
1. 新聞・雑誌		28	37.8
2. TVのニュース		39	52.7
3. ネットのニュース		21	28.4
4. SNS		5	6.8
5. 講演会・イベント等		13	17.6
6. 会社の研修等		10	13.5
7. 学校の授業等		6	8.1
8. 各種会議		5	6.8
9. その他 【 】 <a href="#">コメント表示</a> (4)		4	5.4
全体		74	100.0

#### (4)「SDGs 商店街を目指す宣言」について

「SDGs 商店街を目指す宣言」とは、北九州市がOECDより「SDGs 推進に向けた世界のモデル都市」に認定されたことをきっかけに、魚町商店街が北九州ESD協議会と連携して行っている取り組みである。本節では、この「SDGs 商店街を目指す宣言」についての認知度をみると（表 25）、認知度は約 6%と非常に低いことがわかった。また、この「SDGs 商店街を目指す宣言」を知った方法については（表 26）、他の取り組みについての認知方法（手段）と比べて「TVのニュース」の割合が高く、「新聞・雑誌」が低いことから、「TVのニュース」による影響が大きかったことが考えられる。

表 25：「SDGs 商店街を目指す宣言」の認知度

Q29 魚町銀天街が北九州ESD協議会と連携して、「SDGs商店街を目指す宣言」をしたことを知っていますか。

(単一回答)

	回答数	%
1. 知っている	77	6.2
2. 知らない	1164	93.8
全体	1241	100.0

表 26：「SDGs 商店街を目指す宣言」を知った方法

Q30 どうやって知りましたか。(いくつでも)

(複数回答)

	回答数	%
1. 新聞・雑誌	23	29.9
2. TVのニュース	49	63.6
3. ネットのニュース	21	27.3
4. SNS	11	14.3
5. 講演会・イベント等	5	6.5
6. 会社の研修等	5	6.5
7. 学校の授業等	6	7.8
8. 各種会議	5	6.5
9. その他 【 】 <a href="#">コメント表示</a> (10)	10	13.0
全体	77	100.0

### 3-3 まとめ

3章では、北九州市におけるSDGsに関するさまざまな取り組みの認知度とそれらを知った方法について、その実態を把握した。前半は北九州市の取り組みや実績についての認知度を、後半は北九州市内の各種団体および取り組みについての認知度をみたが、総じて、認知度は低い傾向である。特に、北九州市内の各種団体や取り組みについては、北九州市の取り組みや実績以上に認知度が低い傾向にある。また、認知する手段として、テレビ、新聞、雑誌等の従来型のメディアの影響が強いこともわかった。

SDGsに関連した各種の取り組みや団体等は、策定や設立して間もないものが多いため、今回の結果のみで評価することは難しいが、やはりより積極的な取り組みや広報、普及啓発活動等が必要であろう。また、テレビ、新聞だけでなく、ネットやSNSなどの積極的な活用による活動等も必要であると考えられる。

#### 4. 勤務先等におけるSDGsに関する取り組み状況

本章では、地域や企業における取り組みの実施状況について把握する。具体的には、町内会や自治会、市民団体やNPOなどにおける取り組みに対する認知度、勤務先や学校等での取り組みの実施状況と、認知度についてのアンケート結果をもとに、その現況についてまとめる。

##### 4-1 町内会等での取り組みに対する認知度

まず、「その他、町内会や自治会、市民団体やNPOなどでSDGsに取り組んでいる事例を知っていますか。」という設問に対する回答（表 27）をみると、「知らない（1,185 件）」と答えた人がほとんどで、全体の 95%を超える結果となった。

表 27：町内会等での取り組みに対する認知度

Q31 その他、町内会や自治会、市民団体やNPOなどでSDGsに取り組んでいる事例を知っていますか。			
(単一回答)		回答数	%
1. 知っている		56	4.5
2. 知らない		1185	95.5
全体		1241	100.0

次に、「知っている」と答えた人に対する「その実施主体、取り組んでいる内容等を教えてください」という設問に対する自由回答（表 28）について見てみると、前章で触れた内容に関連した回答が一部見られたものの、全体的には具体性に欠ける内容のものが多く、SDGsとの関連性についても曖昧な回答が多い印象を受けた。

以上のことから、町内会等での取り組みに対する認知度は極端に低いという状況にあることが分かった。ただし、この結果については、町内会や自治会等において実際にSDGsに関する取り組みがあまり実施されていないことが要因である可能性も高いと考えられる。

表 28：自由回答一覧（町内会等でSDGsに取り組んでいる事例について）

ID	記述内容	属性
18841654	安心	男性/43歳/福岡県/パート・アルバイト
14743150	国連/ハイレベル政治フォーラム	男性/49歳/福岡県/会社員(事務系)
8664999	なし	女性/31歳/福岡県/専業主婦(主夫)
19377723	どこかの学校が何かに取り組んでいると聞いた	男性/47歳/福岡県/会社員(その他)
12654667	貧困をなくす	女性/34歳/福岡県/会社員(事務系)
6789339	よくわからない。	男性/68歳/福岡県/自由業
18428441	神戸市	男性/19歳/福岡県/学生
17613176	環境整備	女性/47歳/福岡県/公務員
8763383	自治会が 防犯や防災などの 地域課題にも 取り組んでいく	女性/54歳/福岡県/パート・アルバイト
8559018	やっている事はネットニュースなどで聞いたりしていたが、詳しい内容までは分からない。	男性/33歳/福岡県/パート・アルバイト
4069515	とくにない。	男性/52歳/福岡県/会社員(その他)
7933437	忘れました	女性/50歳/福岡県/専業主婦(主夫)
9235522	市民センターの館長さんがSDGSについて、法政大学の川久保先生から研修を受けたことを、新聞で見ました。また順次すべての館長さんに対して研修を行うことを知りました。	男性/74歳/福岡県/ その他
20200887	地域貢献	男性/25歳/福岡県/ 無職
18568430	忘れました	女性/48歳/福岡県/ 会社員(技術系)
4139215	市民センター	男性/39歳/福岡県/ 会社員(事務系)
8149532	待機児童対策。環境リサイクル。	男性/43歳/福岡県/ 会社員(その他)
10005882	自然保護の取り組み	男性/27歳/福岡県/ 公務員
3427405	商店街や北九州市立大等の連携で魚町銀天街の空き店舗の活用。	男性/74歳/福岡県/ 無職
18981228	もっと大事にしたい	男性/31歳/福岡県/ 会社員(事務系)
20306090	女性や高齢者、障害者の活躍やエネルギー、リサイクル事業の技術を高めていく取り組みをしている。	男性/66歳/福岡県/ 専業主婦(主夫)
1859801	廃品回収	男性/54歳/福岡県/ 公務員
18841735	会員を集めたり、イベントを開催したりしている。環境改善に取り組んだ北九州の経験を広めるための活	女性/34歳/福岡県/ 専業主婦(主夫)
18618385	ない	男性/19歳/福岡県/ 学生
18953147	ゴミの分別	女性/19歳/福岡県/ 学生
6523433	聞いただけ	男性/49歳/福岡県/ 会社員(その他)
19024692	ユニセフ黒柳徹子さんのイメージ。パンダのマークの通販募金。イオンの黄色いレシート募金運動。赤い	女性/45歳/福岡県/ 専業主婦(主夫)
13605519	地域住民の安全	男性/66歳/福岡県/ 無職
8133028	紙などの資源の回収。	女性/57歳/福岡県/ 専業主婦(主夫)
20298468	いくつかのスーパーでビニール袋が配られなくなった。	女性/38歳/福岡県/ パート・アルバイト
9135794	忘れた	男性/31歳/福岡県/ 会社員(技術系)
19118991	北九州市立大学で、食ロスを減らす取り組みを行っている。	女性/17歳/福岡県/ 学生
6712424	子ども食堂や街角カフェなど	女性/65歳/福岡県/ 専業主婦(主夫)
3469898	洋上発電の取り組み	男性/57歳/福岡県/ 会社員(その他)
13110570	環境・社会・経済の未来価値創造の戦略的な展開。横断的施策の推進？部局の壁を越えた取り組み？。	男性/51歳/福岡県/ 会社員(その他)
9056269	学校で活動内容を普及している	女性/48歳/福岡県/ パート・アルバイト
19175424	なし	男性/23歳/福岡県/ 会社員(事務系)
19495732	自治体を、主体として、福祉に、貢献する	男性/63歳/福岡県/ 公務員
8558150	幼稚園で行われている親子での農業体験や料理体験	女性/35歳/福岡県/ 専業主婦(主夫)
16215273	学校	男性/59歳/福岡県/ 公務員
4857383	北九州エコタウン	女性/53歳/福岡県/ 会社員(事務系)
20189593	環境	男性/18歳/福岡県/ 学生
18811861	内容は理解していない	男性/54歳/福岡県/ 会社員(その他)
3392259	回覧板で町内会も取り組んでいるとのことでした。	女性/62歳/福岡県/ 会社員(その他)
19800059	ゴミ拾い	男性/22歳/福岡県/ パート・アルバイト
20333926	市で一丸となって進めている	男性/22歳/福岡県/ 公務員
19100592	世界平和	男性/29歳/福岡県/ 会社員(その他)
20232927	魚町	男性/22歳/福岡県/ 公務員
19904405	自治体のボランティア活動	男性/16歳/福岡県/ 学生
18762696	内容までは知らない	男性/71歳/福岡県/ 自由業
20153378	上下水道の整備	女性/17歳/福岡県/ 学生
17997739	覚えてない	男性/27歳/福岡県/ 会社員(事務系)
13851805	途上国の水道事業推進	女性/60歳/福岡県/ その他
12601108	間違えた。良くは知らない	女性/61歳/福岡県/ 専業主婦(主夫)
16662143	バリアフリーの改善	男性/21歳/福岡県/ 公務員
13468244	なし	男性/37歳/福岡県/ パート・アルバイト

#### 4-2 勤務先や学校等での取り組みの実施状況

まず、「あなたの勤務先や学校等ではSDGsに関する取り組みを実施していますか。」という設問に対する回答（表 29）をみると、「分からない（465件）」という答えが最も多く、全体の5割を超え、次いで「実施していない（330件）」という答えが4割近くを占める結果となった。その一方で、「実施している（41件）」と「検討中である（32件）」については、あわせても1割に満たない状況であることが分かった。

表 29：勤務先や学校等での取り組み状況

Q33 あなたの勤務先や学校等ではSDGsに関する取り組みを実施していますか。			
(単一回答)		回答数	%
1. 実施している		41	4.7
2. 検討中である		32	3.7
3. 実施していない		330	38.0
4. 分からない		465	53.6
全体		868	100.0

次に、「具体的にはどのような取り組みを行っていますか（予定、検討中も含む）。(いくつでも)」という設問については、表 30 に示すとおり、「勉強会・研修会の実施もしくは参加（26件）」という回答が最も多く全体の6割強を占め、「17の目標と業務内容のひも付け（19件）」や「CSR や広報の一環で言葉を利用（16件）」などの答えがそれに次ぐ結果となった。また、「17の目標の1つを事業化（11件）」をはじめ、事業として具体的なアクションを起こす段階にあるのは3割にも満たない状況であることが分かった。

表 30：勤務先や学校等における具体的な取り組み内容

Q34 具体的にはどのような取り組みを行っていますか(予定、検討中も含む)。(いくつでも)			
(複数回答)		回答数	%
1. 勉強会・研修会の実施もしくは参加		26	63.4
2. CSRや広報の一環で言葉を利用		16	39.0
3. 17の目標と業務内容のひも付け		19	46.3
4. 17の目標の1つを事業化		11	26.8
5. 17の目標の複数項目が連鎖する形で事業化		10	24.4
6. 経営理念や経営戦略にSDGsを実装		8	19.5
7. その他 [ ] <a href="#">コメント表示</a> (4)		4	9.8
全体		41	100.0

以上のことから、勤務先や学校等ではSDGsに関する取り組みがほとんど実施されておらず、全体的にはこれから取り入れるための勉強をはじめるといった段階にあるといえる。

### 4-3 企業等での取り組みに対する認知度

まず、「SDGsに取り組んでいる企業等を知っていますか。」という設問に対する回答（表 31）をみると、「知らない（1,170 件）」と答えた人が圧倒的に多く、全体の約 94%を占める結果となった。

表 31：企業等での取り組みに対する認知度

Q35 SDGsに取り組んでいる企業等を知っていますか。		回答数	%
(単一回答)			
1. 知っている		71	5.7
2. 知らない		1170	94.3
全体		1241	100.0

次に、「具体的な企業名、取り組んでいる内容を教えてください。」という設問に対する自由回答（表 32）について見てみると、北九州市内に本社を置く企業の名称が多く挙げられているが、取り組みの内容についての明確な回答はあまり見られなかった。

以上のことから、企業等での取り組みに対する認知度は極端に低い状況にあるといえる。この主な要因は、前節同様に、実際SDGsに取り組んでいる企業が少ないという状況にあると考えられるが、自由記述の内容も踏まえると、SDGsに対する一般的な理解度やイメージ、企業側が発信する情報の質という面にも課題があると推察される。



表 32 : S D G s に取り組んでいる具体的企業名と取り組み内容 (自由記述)

ID	企業名	内容	企業名	内容	企業名	内容	属性
18841654	わからない	わからない					男性/43歳/福岡県/パート・アルバイト
14743150	安川電機	ロボットなどの実演					男性/49歳/福岡県/会社員(事務系)
8909706	シャボン玉石鹸??	水をきれいにする					男性/46歳/福岡県/会社員(その他)
522458	シャボン玉石けん	石鹸系消泡剤	安川電機		ギラパンツ		女性/67歳/福岡県/専業主婦(主夫)
3889324	TOTO	特になし					男性/57歳/福岡県/自営業
7793735	toto	わからない					男性/30歳/福岡県/会社員(事務系)
18647638	安川電機	地域社会の貢献					男性/48歳/福岡県/公務員
16605212	ホンダ	気候変動に関すること					男性/41歳/福岡県/会社員(事務系)
18428441	味の素	わからない					男性/19歳/福岡県/学生
18594682	安川電機	SDGsが掲げた17の取り組み					男性/33歳/福岡県/その他
8763383	イオン	イオン九州が取り組んでいることとテレビか何かで聞いただけ					女性/54歳/福岡県/パート・アルバイト
4098515	TOTO	とくにない。	TOYOTA				男性/52歳/福岡県/会社員(その他)
14382132	新日鉄	インターンシップ					男性/43歳/福岡県/公務員
13934477	朝日新聞	特集記事で様々な取り組みを紹介している					女性/35歳/福岡県/会社員(その他)
20415524	トヨタ自動車	アカワミガメの保護					女性/16歳/福岡県/学生
14035868	市民太陽光発電所	公営のメガソーラー					女性/54歳/福岡県/パート・アルバイト
36115	安川電機	誠実性をモットーに貢献してゆく					男性/65歳/福岡県/会社員(技術系)
673638	パナソニック	電気の明かりが無いところに明かりをつける。	ファンケル		二酸化炭素の削減		男性/47歳/福岡県/会社員(その他)
19944500	TOTO	わからない					男性/26歳/福岡県/会社員(事務系)
19967343	忘れた	水道設備等					女性/34歳/福岡県/会社員(事務系)
4399654	イオンモール	投票所開設					男性/35歳/福岡県/会社員(その他)
20335591	社会福祉協議会	地域福祉					女性/36歳/福岡県/会社員(事務系)
7333143	安川電機	平等な社会づくり					男性/22歳/福岡県/学生
12747635	安川電機	TOTO	タカギ				男性/32歳/福岡県/会社員(その他)
3427405	安川電機	介護ロボットの開発	TOTO		節水トイレの開発		男性/74歳/福岡県/無職
18981228	コスモス	皆が速やかに					男性/31歳/福岡県/会社員(事務系)
1859801	北九州市役所	思想の普及					男性/54歳/福岡県/公務員
18841735	安川電機	質の高い教育やジェンダーレス。人権や環境や経済問題など。					女性/34歳/福岡県/専業主婦(主夫)
13382475	アスタック入江	働きがいも経済成長も	シャボン玉石けん	すべての人に健康と福祉を	安川電機	すべての人に健康と福祉を	男性/68歳/福岡県/会社員(事務系)
7102443	サンリリー	森と水の環境保全					男性/63歳/福岡県/無職
3430758	eonny	全般					男性/67歳/福岡県/会社員(その他)
7148635	TOTO	バリアフリー					女性/47歳/福岡県/会社員(その他)
6953578	安川電機	ロボット技術の開発					男性/46歳/福岡県/公務員
19024859	味の素	誠実な経営					男性/29歳/福岡県/会社員(技術系)
9395345	分かんない	わからない					女性/31歳/福岡県/パート・アルバイト
1239451	味の素	木がに終止符を打ち、食料の安定供給に企業として取り組む					男性/62歳/福岡県/自営業
3404219	日本郵船	内容はわからない					男性/38歳/福岡県/会社員(事務系)
6736955	九州工業大学	研修など					男性/42歳/福岡県/会社員(事務系)
9135794	忘れた	忘れた					男性/31歳/福岡県/会社員(技術系)
10954377	東芝	環境					女性/18歳/福岡県/学生
3976395	積水ハウス	建築物づくりに取り組んでいることを海外のフォーラムなどで発表している。					男性/27歳/福岡県/無職
3650399	伊藤園	良く知らない					男性/63歳/福岡県/公務員
3469898	安川	ロボット					男性/57歳/福岡県/会社員(その他)
13110570	イオン九州株式会社	地域の皆さまの理解を深めることを目的とした「SDGs発表会」を、北九州市と実際に目標に取り組んでいる	ポーラ・オルビスグループ	「ジェンダー平等を実現しよう」「働きがいも経済成長も」の両目標の実現において、事業活動として進めている。	シャボン玉石けん	健康な体ときれいな水を守る」に基づき、人と環境に優しい製品を製造・販売する	男性/51歳/福岡県/会社員(その他)
4034412	三井住友銀行	植林					男性/59歳/福岡県/経営者・役員
9056269	TOTO	自然環境に配慮したトイレの普及					女性/48歳/福岡県/パート・アルバイト
19175424	なし	なし	なし	なし	なし	あ	男性/23歳/福岡県/会社員(事務系)
3311190	イオン若松	内容は知らない					女性/49歳/福岡県/会社員(事務系)
528116	TOTO	CSR					男性/60歳/福岡県/会社員(事務系)
20388	新日鐵住金	具体的には把握していない					男性/56歳/福岡県/会社員(事務系)
20189593	日産	部品					男性/18歳/福岡県/学生
3572502	TOTO	平等な社会					男性/51歳/福岡県/自営業
3308756	丸電	そこまでは知らない					男性/52歳/福岡県/公務員
14806465	住友商事	離島の蓄電池事業					男性/23歳/福岡県/学生
9038321	損保ジャパン日本興亜	わからない					女性/29歳/福岡県/会社員(事務系)
19008253	詳しくはわからない	ごみ処理関係					男性/36歳/福岡県/会社員(技術系)
18272660	タカギ	水に取り組んでいる	安川		ロボット工学に取り組んでいる		男性/60歳/福岡県/無職
6325660	テックコーポレーション	水質浄化					男性/43歳/福岡県/会社員(技術系)
19009697	損保ジャパン日本興亜	あいおいニッセイ同和					男性/47歳/福岡県/会社員(その他)
6677427	安川電機	おぼえていない					女性/64歳/福岡県/専業主婦(主夫)
19800059	覚えてない	覚えてない					男性/22歳/福岡県/パート・アルバイト
19904405	パナソニック	再生可能エネルギー					男性/16歳/福岡県/学生
17997739	トヨタ	覚えていない					男性/27歳/福岡県/会社員(事務系)
14273274	たかき	まちづくり					男性/20歳/福岡県/学生
18619661	忘れた	忘れた					女性/63歳/福岡県/その他
16662143	TOTO	SS活動	桑原電工	画期的サービスの実現化	山九	地域の治安の改善	男性/21歳/福岡県/公務員
19974244	九州電力	原子力発電を少なくしている					男性/24歳/福岡県/公務員
19654519	リコー	格差をなくす					男性/38歳/福岡県/公務員
17934392	安川電機	ロボットの開発					女性/60歳/福岡県/専業主婦(主夫)
6026610	TOTO	水環境対策					男性/48歳/福岡県/公務員
13468244	なし	なし					男性/37歳/福岡県/パート・アルバイト

#### 4-4 まとめ

本章では、地域や企業等における取り組みの実施状況とその認知度について把握した。その結果、SDGsに関する地域の団体やNPO等での取り組みに対する認知度は極端に低く、関心も低い状況にあることが分かった。また、SDGsに関する取り組みは、勤務先や学校等でもほとんど実施されておらず、ごく一部の実施や検討段階にある企業等における取り組みとしては、勉強会や研修会の実施が多く、本格的な導入前の段階にあると考えられる。

## 5. SDGsに対する考え方と意識

### 5-1 SDGsに対する現在の考え方や関わり方

#### (1) 単純集計結果

「あなた自身のSDGsに対する考え方や関わり方について、あてはまるものを選んでください。(いくつでも)」という設問に対する回答を集計すると表33のようになる。

その結果をみると、最も多かったのが「特になし(50.4%)」という回答で、「SDGsにはあまり興味・関心がない(18.4%)」という回答がそれに次いで多く、個人レベルではこれらを合わせた7割近い人が無関心に近い意識であると考えられる。その一方で、何かしらの関心があると考えられる回答の中では、「SDGsの考え方に共感している(15.3%)」、「今後SDGsが重視される世の中になると考えている(11.9%)」といった回答が多かった。

表33：SDGsに対する考え方や関わり方

Q37 あなた自身のSDGsに対する考え方や関わり方について、あてはまるものを選んでください。(いくつでも)			
(複数回答)		回答数	%
1. SDGsに興味関心を持ち、自ら積極的に調べている		39	3.1
2. SDGsの考え方に共感している		190	15.3
3. 今後、SDGsが重視される世の中になると考えている		148	11.9
4. SDGsに関係のあるような商品やサービスを選んでいる		18	1.5
5. SDGsに関係のあるような企業の株を買ったり、投資したりしている		16	1.3
6. SDGsに力を入れている企業を把握している		15	1.2
7. SDGsをテーマとした講演会等のイベントに積極的に参加している		16	1.3
8. 日常生活においてSDGsを意識した行動をとっている		51	4.1
9. SDGsにはあまり興味・関心がない		228	18.4
10. SDGsの考え方には反対だ		8	0.6
11. その他 【   】 <a href="#">コメント表示</a> (76)		76	6.1
12. 特になし		625	50.4
全体		1241	100.0

## (2) 属性別クロス集計結果

### ①性別と考え方について

性別によるSDGsに対する考え方の差を比較するためにクロス集計（表 34）を行った。その結果、男女ともに全体の約7割は無関心に近い意識であるが、何かしらの関心を持っている残りの3割について見てみると、どの項目においても男女間で目立った意識の差は見られなかった。ただし、「SDGsの考え方に共感している」や「今後、SDGsが重視されるような世の中になると考えている」という点については、男性の意識の方がやや高いといえる。

表 34：クロス集計（性別×SDGsに対する考え方）

回答数 %	全体	SDGsに興味を持ち、自ら積極的に調べている	SDGsの考え方に共感している	今後、SDGsが重視される世の中になると考えている	SDGsに関係のある商品やサービスを選んでいる	SDGsに関係のある企業の株を買ったり、投資したりしている	SDGsに力を入れている企業を把握している	SDGsをテーマとした講演会等のイベントに積極的に参加している	日常生活においてSDGsを意識した行動をとっている	SDGsにはあまり興味・関心がない	SDGsの考え方には反対だ	その他	特になし
全体	1241 100.0	39 3.1	190 15.3	148 11.9	18 1.5	16 1.3	15 1.2	16 1.3	51 4.1	228 18.4	8 0.6	76 6.1	625 50.4
男性	620 100.0	26 4.2	103 16.6	82 13.2	13 2.1	11 1.8	11 1.8	11 1.8	24 3.9	114 18.4	6 1.0	34 5.5	310 50.0
女性	621 100.0	13 2.1	87 14.0	66 10.6	5 0.8	5 0.8	4 0.6	5 0.8	27 4.3	114 18.4	2 0.3	42 6.8	315 50.7

## ②年齢と考え方について

SDGsに関する年齢別の考え方の違いを把握するためにクロス集計（表 35）を行った。年齢別にみると、「SDGsにはあまり興味・関心がない」と回答した割合は、20代前半（37.0%）、20代後半（26.8%）、30代前半（26.2%）、30代後半（21.9%）において高いという点が目立つ結果となった。一方、何かしらの興味・関心を持っている人に着目すると、「SDGsの考え方に共感している」と答えた割合が高いのが10代（21.0%）、30代前半（22.4%）、50代前半（20.5%）、60歳以上（21.2%）であること、「今後、SDGsが重視される世の中になると考えている」と答えた割合が比較的高いのが10代（16.1%）と60歳以上（18.8%）であることなどが特徴的である。

表 35：クロス集計（年齢×SDGsに対する考え方）

回答数 %	全体	SDGsに興味を持ち、自ら積極的に調べている	SDGsの考え方に共感している	今後、SDGsが重視される世の中になると考えている	SDGsに関係のある商品やサービスを選んでいる	SDGsに関係のある企業や株を買ったり、投資したりしている	SDGsに力を入れている企業を把握している	SDGsをテーマとした講演会等のイベントに積極的に参加している	日常生活においてSDGsを意識した行動をとっている	SDGsにはあまり興味・関心がない	SDGsの考え方には反対だ	その他	特になし
全体	1241 100.0	39 3.1	190 15.3	148 11.9	18 1.5	16 1.3	15 1.2	16 1.3	51 4.1	228 18.4	8 0.6	76 6.1	625 50.4
12才未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
12才～19才	62 100.0	4 6.5	13 21.0	10 16.1	1 1.6	0 0.0	0 0.0	2 3.2	3 4.8	9 14.5	1 1.6	2 3.2	32 51.6
20才～24才	73 100.0	2 2.7	7 9.6	1 1.4	2 2.7	2 2.7	1 1.4	0 0.0	2 2.7	27 37.0	0 0.0	3 4.1	32 43.8
25才～29才	127 100.0	4 3.1	9 7.1	9 7.1	3 2.4	2 1.6	2 1.6	1 0.8	3 2.4	34 26.8	1 0.8	8 6.3	60 47.2
30才～34才	107 100.0	7 6.5	24 22.4	12 11.2	2 1.9	1 0.9	4 3.7	1 0.9	5 4.7	28 26.2	1 0.9	6 5.6	43 40.2
35才～39才	128 100.0	3 2.3	17 13.3	10 7.8	2 1.6	3 2.3	2 1.6	1 0.8	2 1.6	28 21.9	1 0.8	5 3.9	70 54.7
40才～44才	111 100.0	2 1.8	11 9.9	13 11.7	1 0.9	0 0.0	0 0.0	1 0.9	0 0.0	21 18.9	1 0.9	7 6.3	63 56.8
45才～49才	116 100.0	2 1.7	10 8.6	9 7.8	0 0.0	0 0.0	2 1.7	3 2.6	4 3.4	22 19.0	1 0.9	7 6.0	67 57.8
50才～54才	122 100.0	6 4.9	25 20.5	16 13.1	2 1.6	2 1.6	3 2.5	3 2.5	7 5.7	17 13.9	1 0.8	10 8.2	59 48.4
55才～59才	103 100.0	2 1.9	12 11.7	13 12.6	1 1.0	2 1.9	0 0.0	0 0.0	9 8.7	18 17.5	0 0.0	12 11.7	47 45.6
60才以上	292 100.0	7 2.4	62 21.2	55 18.8	4 1.4	4 1.4	1 0.3	4 1.4	16 5.5	24 8.2	1 0.3	16 5.5	152 52.1

### ③個人年収と考え方について

個人年収と意識の関係（表 36）について見てみると、年収 600 万円を超える層において「SDGs の考え方に共感している」や「今後、SDGs が重視される世の中になると考えている」と回答した人の割合が比較的高くなる傾向にあることが分かる。また、年収 800～1,000 万未満の人は「SDGs に興味関心を持ち、自ら積極的に調べている（18.5%）」と答えた比率が他の層と比べて高いことなどが特徴的である。

表 36：クロス集計（個人年収×SDGs に対する考え方）

回答数 %	全体	SDGs に興味関心を持ち、自ら積極的に調べている	SDGs の考え方に共感している	今後、SDGs が重視される世の中になると考えている	SDGs に関する商品やサービスを選んでいる	SDGs に関する企業株を買ったり、投資したりしている	SDGs に力を入れている企業を把握している	SDGs をテーマとした講演会等のイベントに積極的に参加している	日常生活においてSDGsを意識した行動をとっている	SDGsにはあまり興味・関心が無い	SDGsの考え方には反対だ	その他	特になし
全体	1241 100.0	39 3.1	190 15.3	148 11.9	18 1.5	16 1.3	15 1.2	16 1.3	51 4.1	228 18.4	8 0.6	76 6.1	625 50.4
200万未満	427 100.0	14 3.3	63 14.8	48 11.2	6 1.4	6 1.4	6 1.4	5 1.2	25 5.9	80 18.7	1 0.2	25 5.9	211 49.4
200～400万未満	295 100.0	8 2.7	38 12.9	37 12.5	5 1.7	3 1.0	2 0.7	4 1.4	11 3.7	50 16.9	4 1.4	20 6.8	158 53.6
400～600万未満	146 100.0	3 2.1	27 18.5	13 8.9	2 1.4	2 1.4	3 2.1	1 0.7	5 3.4	28 19.2	2 1.4	11 7.5	67 45.9
600～800万未満	72 100.0	3 4.2	18 25.0	14 19.4	2 2.8	4 5.6	1 1.4	4 5.6	3 4.2	13 18.1	1 1.4	5 6.9	32 44.4
800～1000万未満	27 100.0	5 18.5	7 25.9	6 22.2	1 3.7	1 3.7	3 11.1	2 7.4	2 7.4	2 7.4	0 0.0	1 3.7	12 44.4
1000～1200万未満	6 100.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	1 16.7
1200～1500万未満	5 100.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0
1500～2000万未満	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0
2000万円以上	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0
わからない	97 100.0	4 4.1	11 11.3	9 9.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	20 20.6	0 0.0	2 2.1	58 59.8

#### ④職業と考え方について

職業別（表 37）に見てみると、「SDGs の考え方に共感している」と答えた割合が比較的高いのは公務員（25.6%）や自由業（25.0%）、「今後、SDGs が重視される世の中になると考えている」と答えた割合については公務員（17.7%）、会社員（事務系）（15.3%）、専業主婦（主夫）（14.7%）などが上位を占めていることが分かる。

また、「SDGs に興味関心を持ち、自ら積極的に調べている」と答えた割合も公務員（11.3%）が他の職業と比べて高くなっているが、その一方で「SDGs にはあまり興味・関心がない」と答えた割合が 24.2% を占めるなど、他の職業と比べて意識の差がある程度明確に分かっている。なお、母数は少ないものの自由業においても同様の傾向が見られる。

表 37：クロス集計（職業×SDGs に対する考え方）

回答数 %	全体	SDGs に興味関心を持ち、自ら積極的に調べている	SDGs の考え方に共感している	今後、SDGs が重視される世の中になると考えている	SDGs に関係のある商品やサービスを選んでいる	SDGs に関係のある企業や株を買ったり、投資したりしている	SDGs に力を入れている企業を把握している	SDGs をテーマとした講演会等のイベントに積極的に参加している	日常生活において SDGs を意識した行動をとっている	SDGs にはあまり興味・関心がない	SDGs の考え方には反対だ	その他	特になし
全体	1241 100.0	39 3.1	190 15.3	148 11.9	18 1.5	16 1.3	15 1.2	16 1.3	51 4.1	228 18.4	8 0.6	76 6.1	625 50.4
公務員	62 100.0	7 11.3	16 25.8	11 17.7	0 0.0	1 1.6	0 0.0	4 6.5	2 3.2	15 24.2	0 0.0	2 3.2	22 35.5
経営者・役員	19 100.0	0 0.0	2 10.5	1 5.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	2 10.5	0 0.0	1 5.3	12 63.2
会社員(事務系)	131 100.0	4 3.1	22 16.8	20 15.3	5 3.8	2 1.5	3 2.3	1 0.8	7 5.3	23 17.6	2 1.5	7 5.3	64 48.9
会社員(技術系)	110 100.0	2 1.8	16 14.5	12 10.9	0 0.0	0 0.0	1 0.9	1 0.9	2 1.8	27 24.5	0 0.0	3 2.7	53 48.2
会社員(その他)	199 100.0	5 2.5	20 10.1	12 6.0	2 1.0	3 1.5	2 1.0	3 1.5	5 2.5	38 19.1	3 1.5	17 8.5	109 54.8
自営業	57 100.0	0 0.0	6 10.5	4 7.0	1 1.8	1 1.8	2 3.5	0 0.0	1 1.8	4 7.0	0 0.0	8 14.0	36 63.2
自由業	16 100.0	1 6.3	4 25.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	1 6.3	0 0.0	0 0.0	4 25.0	0 0.0	2 12.5	5 31.3
専業主婦(主夫)	224 100.0	8 3.6	35 15.6	33 14.7	2 0.9	2 0.9	2 0.9	2 0.9	10 4.5	32 14.3	1 0.4	15 6.7	115 51.3
パート・アルバイト	166 100.0	4 2.4	18 10.8	18 10.8	3 1.8	2 1.2	1 0.6	2 1.2	13 7.8	38 22.9	2 1.2	7 4.2	82 49.4
学生	85 100.0	5 5.9	15 17.6	10 11.8	1 1.2	1 1.2	1 1.2	2 2.4	4 4.7	16 18.8	0 0.0	4 4.7	44 51.8
その他	53 100.0	1 1.9	12 22.6	6 11.3	1 1.9	3 5.7	1 1.9	0 0.0	1 1.9	7 13.2	0 0.0	4 7.5	26 49.1
無職	119 100.0	2 1.7	24 20.2	20 16.8	3 2.5	1 0.8	1 0.8	1 0.8	5 4.2	22 18.5	0 0.0	6 5.0	57 47.9

### ⑤年齢性別と考え方について

年齢性別と意識の関係（表 38）について見てみると、「SDGsにはあまり興味・関心がない」と答えた割合が最も高いのが20代女性（35.1%）であり、30代男性（26.5%）、20代男性（24.4%）、30代女性（20.4%）も2割を超える結果となった。その一方で、「SDGsの考え方に共感している」と答えた人の割合は、60代女性（24.6%）が最も高く、10代女性（23.8%）や60代男性（21.4%）がそれに次ぐ結果となった。また、「今後、SDGsが重視されるよう世の中になると考えている」と答えた人の割合が高いのは、60代男性（21.4%）や70代女性（21.7%）であった。

表 38：クロス集計（年齢性別×SDGsに対する考え方）

回答数 %	全体	SDGsに興味を持ち、自ら積極的に調べている	SDGsの考え方に共感している	今後、SDGsが重視される世の中になると考えている	SDGsに関係のあるような商品やサービスを選んでいる	SDGsに関係のあるような企業株を買ったり、投資している	SDGsに力を入れている企業を探している	SDGsをテーマとした講演会等のイベントに積極的に参加している	日常生活においてSDGsを意識した行動をとっている	SDGsにはあまり興味・関心がない	SDGsの考え方には反対だ	その他	特になし
全体	1241 100.0	39 3.1	190 15.3	148 11.9	18 1.5	16 1.3	15 1.2	16 1.3	51 4.1	228 18.4	8 0.6	76 6.1	625 50.4
【男性】15-19歳	20 100.0	2 10.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	2 10.0	1 5.0	0 0.0	1 5.0	12 60.0
【男性】20代	86 100.0	5 5.8	10 11.6	7 8.1	4 4.7	3 3.5	2 2.3	0 0.0	3 3.5	21 24.4	1 1.2	4 4.7	38 44.2
【男性】30代	132 100.0	6 4.5	25 18.9	11 8.3	2 1.5	3 2.3	5 3.8	2 1.5	5 3.8	35 26.5	2 1.5	3 3.8	61 46.2
【男性】40代	124 100.0	4 3.2	13 10.5	16 12.9	1 0.8	0 0.0	1 0.8	4 3.2	2 1.6	23 18.5	2 1.6	8 6.5	66 53.2
【男性】50代	103 100.0	6 5.8	20 19.4	15 14.6	2 1.9	3 2.9	3 2.9	3 2.9	6 5.8	20 19.4	1 1.0	6 5.8	48 46.6
【男性】60代	103 100.0	2 1.9	22 21.4	22 21.4	3 2.9	1 1.0	0 0.0	0 0.0	4 3.9	7 6.8	0 0.0	3 3.9	59 57.3
【男性】70-74歳	52 100.0	1 1.9	10 19.2	8 15.4	0 0.0	1 1.9	0 0.0	1 1.9	2 3.8	7 13.5	0 0.0	6 11.5	26 50.0
【女性】15-19歳	42 100.0	2 4.8	10 23.8	7 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.4	1 2.4	8 19.0	1 2.4	1 2.4	20 47.6
【女性】20代	114 100.0	1 0.9	6 5.3	3 2.6	1 0.9	1 0.9	1 0.9	1 0.9	2 1.8	40 35.1	0 0.0	7 6.1	54 47.4
【女性】30代	103 100.0	4 3.9	16 15.5	11 10.7	2 1.9	1 1.0	1 1.0	0 0.0	2 1.9	21 20.4	0 0.0	6 5.8	52 50.5
【女性】40代	103 100.0	0 0.0	8 7.8	6 5.8	0 0.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	2 1.9	20 19.4	0 0.0	6 5.8	64 62.1
【女性】50代	122 100.0	2 1.6	17 13.9	14 11.5	1 0.8	1 0.8	0 0.0	0 0.0	10 8.2	15 12.3	0 0.0	16 13.1	58 47.5
【女性】60代	114 100.0	2 1.8	28 24.6	20 17.5	1 0.9	1 0.9	1 0.9	1 0.9	8 7.0	8 7.0	1 0.9	6 5.3	52 45.6
【女性】70-74歳	23 100.0	2 8.7	2 8.7	5 21.7	0 0.0	1 4.3	0 0.0	2 8.7	2 8.7	2 8.7	0 0.0	0 0.0	15 65.2

### （3）SDGsに対する考え方の傾向

本節では、SDGsに対する現在の考え方や関わり方にどのような傾向があるのかを把握した。その結果、全体的には、無関心に近い人がかなり多い状況にあることが分かった。

また、属性別の傾向として、年代別では20～30代における関心度がとくに低く、職業別では公務員や自由業において意識の差がある程度明確に現れる結果となった。その一方で、10代や60代以上の年代はSDGsに対する意識が高いことが分かった。

以上を踏まえると、20～30代への普及啓発が課題だといえるが、中長期的な視点では、中高生をはじめとした若年層に対する教育効果が高いと考えられる。

## 5-2 SDGsに関する今後のアクションについて

### (1) 単純集計結果

まず、「あなたは、今後、SDGsに関して何らかのアクションを起こしたいと思いますか。」という設問に対する回答を集計（表 39）した結果、はい（271 件）と答えた人は全体の 2 割程度であり、分からない（727 件）と答えた人が 6 割近くを占めていることが分かった。

次に、「17 の目標のうち、どの目標（テーマ）についてのアクションを起こしたいですか。（いくつでも）」という設問に対する回答を集計すると表 40 のようになった。全体的に見てみると、ほとんどの項目について 2 割を超える人が選択していたが、「パートナーシップで目標を達成しよう（26 件）」のみ 1 割未満という結果となった。項目別に見てみると、最も多かったのが、「すべての人に健康と福祉を（39.5%）」で全体の約 4 割を占め、それに次いで、「住み続けられるまちづくりを（35.4%）」、「貧困をなくそう（30.6%）」、「質の高い教育をみんなに（28.8%）」、「海の豊かさを守ろう（27.3%）」という項目を選択した人が多かった。

さらに、「具体的にはどのようなアクションですか。（いくつでも）」という設問に対する回答を集計（表 41）した結果、「日常生活においてSDGsを意識した行動をとりたい（59.0% 件）」と答えた人が約 6 割と最も多く、それに次いで「SDGsに関係のあるような活動に参加・協力したい（39.5%）」、「SDGsに関係のあるような商品やサービスを選びたい（37.3%）」と答えた人が 4 割近くを占めていた。それに対して、「勤務先や学校等においてSDGsに関する取り組みをはじめたい（11.8%）」や「SDGsに関係のあるような企業の株を買ったり、投資したりしたい（10.3%）」というアクションに対する意向は低い結果となった。つまり、日常的に個人レベルで比較的取り組みやすいことからはじめようという意識が強いと考えられる。

以上のことから、前提条件として具体的なアクションを起こすことに対する明確な意志を持っていない人が多いものの、17 の目標の中では日常生活との関連性がイメージしやすい項目に対するアクション意向が強く、具体的には身近なことから取り組みたいと考えている人が多い傾向にあるといえる。

表 39：SDGsに関するアクション意向

Q38 あなたは、今後、SDGsに関して何らかのアクションを起こしたいと思いますか。			
（単一回答）		回答数	%
1. はい		271	21.8
2. いいえ		243	19.6
3. 分からない		727	58.6
全体		1241	100.0



表 40 : 17 の目標に対するアクション意向 (複数回答)

Q39 17の目標のうち、どの目標(テーマ)についてのアクションを起こしたいですか。(いくつでも)			
(複数回答)		回答数	%
1. 貧困をなくそう		83	30.6
2. 飢餓をゼロに		69	25.5
3. すべての人に健康と福祉を		107	39.5
4. 質の高い教育をみんなに		78	28.8
5. ジェンダー平等を実現しよう		51	18.8
6. 安全な水とトイレを世界中に		63	23.2
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに		64	23.6
8. 働きがいも経済成長も		55	20.3
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう		40	14.8
10. 人や国の不平等をなくそう		64	23.6
11. 住み続けられるまちづくりを		96	35.4
12. つくる責任 つかう責任		58	21.4
13. 気候変動に具体的な対策を		67	24.7
14. 海の豊かさを守ろう		74	27.3
15. 陸の豊かさも守ろう		57	21.0
16. 平和と公正をすべての人に		60	22.1
17. パートナーシップで目標を達成しよう		26	9.6
18. 未定・わからない		7	2.6
全体		271	100.0

表 41 : 具体的なアクション

Q40 具体的にどのようなアクションですか。(いくつでも)			
(複数回答)		回答数	%
1. SDGs関連書籍の購入やSDGsに関する講演会への参加を通じて理解を深めたい		64	23.6
2. SDGsに関係のあるような活動に参加・協力したい		107	39.5
3. SDGsに関係のあるような商品やサービスを選びたい		101	37.3
4. SDGsに関係のあるような企業の株を買ったり、投資したりしたい		28	10.3
5. 日常生活においてSDGsを意識した行動をとりたい		160	59.0
6. 勤務先や学校等においてSDGsに関する取り組みをはじめたい		32	11.8
7. その他 [ ] <a href="#">コメント表示</a> (7)		7	2.6
全体		271	100.0

## (2) 属性別クロス集計結果

### ①性別とアクション意向について

男女別のSDGsに関するアクション意向（表 43）を集計した結果、あまり目立った差は見られなかったが、「いいえ」と答えた男性の割合（24.4%）が女性の割合（14.8%）よりも1割程度高いことが分かった。

表 43：クロス集計（性別×SDGsに関するアクション意向）

回答数 %	全体	はい	いいえ	分からない
全体	1241 100.0	271 21.8	243 19.6	727 58.6
男性	620 100.0	137 22.1	151 24.4	332 53.5
女性	621 100.0	134 21.6	92 14.8	395 63.6

### ②年齢とアクションについて

年齢別のSDGsに関するアクション意向（表 44）を見てみると、10代（30.6%）から20代前半（34.2%）におけるアクション意向が3割を超えるなど、他の年齢層と比べて意識が高い状況にあることが分かる。

表 44：クロス集計（年齢×SDGsに関するアクション意向）

回答数 %	全体	はい	いいえ	分からない
全体	1241 100.0	271 21.8	243 19.6	727 58.6
12才未満	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
12才～19才	62 100.0	19 30.6	7 11.3	36 58.1
20才～24才	73 100.0	25 34.2	14 19.2	34 46.6
25才～29才	127 100.0	19 15.0	29 22.8	79 62.2
30才～34才	107 100.0	22 20.6	20 18.7	65 60.7
35才～39才	128 100.0	24 18.8	30 23.4	74 57.8
40才～44才	111 100.0	18 16.2	21 18.9	72 64.9
45才～49才	116 100.0	19 16.4	26 22.4	71 61.2
50才～54才	122 100.0	31 25.4	23 18.9	68 55.7
55才～59才	103 100.0	15 14.6	19 18.4	69 67.0
60才以上	292 100.0	79 27.1	54 18.5	159 54.5

### ③個人年収とアクションについて

個人年収別にSDGsに関するアクション意向を比較した結果（表 45）、「はい」と答えた人の割合が最も高いのは、年収 600～800 万未満（31.9%）の層で、年収 800～1,000 万未満（29.6%）の層がそれに次いで高いことが分かった。その一方で、母数は少ないものの、年収 1,000 万を超える層ほど「いいえ」と答えた割合が高くなっていることから、ある一定の年収を超えると具体的アクションに対する意識が低くなる傾向にあると言える。

表 45：クロス集計（個人年収×SDGsに関するアクション意向）

回答数 %	全体	はい	いいえ	分からない
全体	1241 100.0	271 21.8	243 19.6	727 58.6
200万未満	427 100.0	101 23.7	87 20.4	239 56.0
200～400万未満	295 100.0	64 21.7	49 16.6	182 61.7
400～600万未満	146 100.0	31 21.2	27 18.5	88 60.3
600～800万未満	72 100.0	23 31.9	17 23.6	32 44.4
800～1000万未満	27 100.0	8 29.6	5 18.5	14 51.9
1000～1200万未満	6 100.0	1 16.7	2 33.3	3 50.0
1200～1500万未満	5 100.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0
1500～2000万未満	4 100.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0
2000万円以上	4 100.0	0 0.0	1 25.0	3 75.0
わからない	97 100.0	11 11.3	17 17.5	69 71.1

#### ④職業とアクションについて

職業別のSDGsに関するアクション意向（表46）を比べてみると、「はい」と答えた割合が最も高いのが学生（34.1%）で、会社員（事務系）（32.1%）や公務員（29.0%）がそれに次ぐ結果となった。その一方で、「いいえ」と答えた割合が3割以上を占めたのが自由業（37.5%）、経営者・役員（36.8%）、会社員（技術系）（30.0%）であった。

表46：クロス集計（職業×SDGsに関するアクション意向）

回答数 %	全体	はい	いいえ	分からない
全体	1241 100.0	271 21.8	243 19.6	727 58.6
公務員	62 100.0	18 29.0	8 12.9	36 58.1
経営者・役員	19 100.0	2 10.5	7 36.8	10 52.6
会社員(事務系)	131 100.0	42 32.1	22 16.8	67 51.1
会社員(技術系)	110 100.0	16 14.5	33 30.0	61 55.5
会社員(その他)	199 100.0	30 15.1	39 19.6	130 65.3
自営業	57 100.0	10 17.5	17 29.8	30 52.6
自由業	16 100.0	3 18.8	6 37.5	7 43.8
専業主婦(主夫)	224 100.0	37 16.5	39 17.4	148 66.1
パート・アルバイト	166 100.0	39 23.5	32 19.3	95 57.2
学生	85 100.0	29 34.1	13 15.3	43 50.6
その他	53 100.0	17 32.1	5 9.4	31 58.5
無職	119 100.0	28 23.5	22 18.5	69 58.0

### ⑤年齢性別とアクションについて

年齢性別にSDGsに関するアクション意向（表47）を比較した結果、「はい」と答えた割合が高かったのは10代女性（33.3%）、20代男性（30.2%）、60代女性（29.8%）、60代男性（29.1%）であり、3割前後を占めていることが分かった。その一方で、「いいえ」と答えた人の割合については、年代に関わらず男性が多く、そのほとんどが2割を超えている状況にある。また、「いいえ」と答えた10代女性（4.8%）の割合が極端に低い点も特徴的である。

表47：クロス集計（年齢性別×SDGsに関するアクション意向）

回答数 %	全体	はい	いいえ	分からない
全体	1241 100.0	271 21.8	243 19.6	727 58.6
【男性】15-19歳	20 100.0	5 25.0	5 25.0	10 50.0
【男性】20代	86 100.0	26 30.2	19 22.1	41 47.7
【男性】30代	132 100.0	18 13.6	36 27.3	78 59.1
【男性】40代	124 100.0	25 20.2	31 25.0	68 54.8
【男性】50代	103 100.0	21 20.4	24 23.3	58 56.3
【男性】60代	103 100.0	30 29.1	26 25.2	47 45.6
【男性】70-74歳	52 100.0	12 23.1	10 19.2	30 57.7
【女性】15-19歳	42 100.0	14 33.3	2 4.8	26 61.9
【女性】20代	114 100.0	18 15.8	24 21.1	72 63.2
【女性】30代	103 100.0	28 27.2	14 13.6	61 59.2
【女性】40代	103 100.0	12 11.7	16 15.5	75 72.8
【女性】50代	122 100.0	25 20.5	18 14.8	79 64.8
【女性】60代	114 100.0	34 29.8	15 13.2	65 57.0
【女性】70-74歳	23 100.0	3 13.0	3 13.0	17 73.9

### (3) 今後のアクションについての傾向

本節では、SDGsに関する今後のアクションについて、その意向や具体的内容にどのような傾向があるのかを把握した。

まず、全体的には、SDGsに関するアクション意向を持つ人は少数であり、どちらかというとならよいか分からないという状態の人が多くいる状況にあることが分かった。また、具体的なアクションに関しては、日常生活との関連性がイメージしやすい項目に対する意向が強く、身近なところから取り組みたいと考えている人が多かった。

次に、属性別に見てみると、年代別では10代や20代のアクション意向が強く、職業別では学生や公務員、事務系の会社員のアクション意向が強いことが分かった。その一方で、職業別に見た際に、経営者・役員意識がかなり低かったのが特徴的である。

### 5-3 まとめ

本章では、SDGsに関する考え方や意識、今後のアクションについての意向を把握した。その結果、現状の意識としては無関心に近い人がかなり多くを占める状況にあるものの、10代の関心が高いことが分かった。また、今後のアクション意向の面では、10代や20代の意識が高いことや、職業によって意識の差が見られることなどが分かった。

以上のことから、若い世代に対する教育効果が高いと考えられるため、若年層の教育と活動に対するサポートを重点的に実施することで、SDGsに関する主体的な活動が広まる可能性が高くなると考えられる。ただし、その一方で、母数は少なかったものの、企業における取り組みを推進していくうえでは、経営陣への意識啓発が課題だと言える。

## 6. おわりに

### 6-1 調査結果のまとめ

2章では、基礎知識という意味で、SDGsという言葉や17の目標に対する認知度や興味関心について考察した。その結果、SDGsという言葉に対する認知度は低く、認知している場合でも、この1～2年で知ったケースが大半を占めていることが分かった。また、17の目標については、生活に密着した目標や身近な目標についての関心が高いことが分かった。

3章では、北九州市におけるSDGsに関する様々な取り組みに対する認知度についての実態把握を行った。その結果、北九州市の取り組みや実績、市内の各種団体における取り組みの実績ともに、総じて認知度が低い状況にあり、認知の手段としては、テレビ、新聞、雑誌等の従来型メディアの影響が強いことが分かった。

4章では、地域や企業等におけるSDGsに関する取り組みの実施状況とその認知度について、実態を把握した。その結果、取り組みに対する認知度は極端に低く、関心も低い状況にあることが分かった。また、勤務先や学校等においてSDGsに関する取り組みが実施されているケースはごく僅かであり、検討段階や実施段階にある一部の企業等においても、勉強会や研修会の実施といったものが多く、本格的な導入前の段階にあると言える。

5章では、SDGsに関する個人の考え方や意識、今後のアクションについての意向を把握した。その結果、10代の関心の高さが特徴的であったが、全体的には無関心に近い人がかなり多くを占めていることが分かった。また、今後のアクションについては、10代や20代の意識の意識が高く、職業によって意識の差が見られることが分かった。

### 6-2 今後に向けて

以上を踏まえると、北九州市内におけるSDGsの認知度向上や取り組みの推進に向けた展望や課題として、次のようなことが考えられる。

まず、基礎知識という面については、身近な生活と関連づけて、年齢層に応じた手段や方法で広報活動を行うことが望ましいと考えられる。

次に、北九州市や各種団体における取り組みに対する認知度の面で、実績と比べて認知度がかなり低い傾向にあり、企業等での取り組みについては、ごく一部の企業が導入段階にある状態であるということを踏まえると、単純な広報活動にとどまらず、多様な主体を巻き込みながら取り組みを実施するなど、取り組みの実施と普及啓発をセットにしたプロセスをデザインすることが求められる。

さいごに、SDGsに関する意識や今後のアクション意向を踏まえると、若い世代に対する教育効果が高いと考えられるため、若年層への教育と活動に対するサポートを重点的に実施することが重要だと言える。

### 参考文献

- 1) 外務省HP
- 2) 北九州市HP
- 3) 魚町銀天街HP